



赤かび病防除・実肥はタイミングが大事です！

本年は高温傾向で推移したため、出穂は確実に早まります。早播きの圃場では1週間以上早まる見込みです。

出穂後の管理作業は時期を逃さないよう、生育状況を見て適期に実施しましょう。

その1. 赤かび病防除は適期2回が基本です！

小麦と裸麦は開花最盛期から10日間程度が最も感染しやすい時期です。この間降雨が続き、気温が高いと多発します。「適期防除2回」で確実に抑えましょう。

【赤かび病の防除適期】

1回目は、開花最盛期！

[開花最盛期の目安]

- ・小麦は、出穂期の7～10日後頃
- ・裸麦は、出穂期の5～7日後頃

2回目は、1回目の7～10日後！



※出穂期：4～5割の穂が出穂した時

■使用薬剤の例

1回目	2回目	備考
ワークアップフロアブル (2,000倍) または シルバキュアフロアブル (2,000倍)	トップジンM水和剤 (小麦1,000～1,500倍) または トップジンMゾル (小麦1,000～1,500倍) (裸麦1,500倍)	トップジンMは、小麦裸麦ともに収穫14日前まで使える「ゾル」がおすすめです。 (「水和剤」は、裸麦では収穫30日前までしか使用できない)

その2. 醤油・パン用小麦には実肥が不可欠です！

タンパク質含有率を上げないといけないので、実肥の施用は必須です。確実に実施しましょう。

■実肥の施用方法

	施肥時期	施肥量 (10a当たり)
慣行施肥	ニシノカオリ : 出穂後0～10日頃 ミナミノカオリ: 出穂後5～10日頃	硫安 30kg または、尿素 13kg
省力施肥 (葉面散布)	赤かび病防除の際に尿素を混用し散布(2回)	尿素6kgを水100Lに溶かし2回散布*

※葉面散布は葉ヤケが発生しますが、品質・収量に影響ありません。

**1月以降、降雨が多く、湿害の発生が見られます。
排水対策は、引き続き収穫まできちんと行ってください！**